Section 2

# 構想の基本方針

## 2.1　構想の考え方

本構想では、第1章で示した「1.1　中部圏の魅力とシビックプライド」、そして「1.2　将来構想を考える上での前提条件」を考慮した上で、国土交通省が令和3年に「国土の長期展望」の中で示したテーマ『真の豊かさ』を深堀し、中部圏の目標とテーマを以下の通り設定しました。

2050年を見据えた中部圏のインフラ整備構想では、重要な交通インフラの要衝としての役割を果たし、常にものづくり産業の強みを活かしながら、「我が国を牽引する中心エリアとして進化する」ことを目指します。同時に、豊かな自然環境、固有の歴史・文化、ゆとりのある暮らしやすさといった各地域の「固有の風土を大切にする」ことにも重点を置いています。

また、南海トラフ地震や気候変動による大規模水害などの自然災害、インフラの老朽化、人口減少といった課題に対して、革新的な技術の導入を前提とし、「誰もが安全で快適に過ごせる地域連携社会の形成」を目指します。そして、中部圏で暮らす人々が「『真の豊かさ』を実感できる国土づくり」に向けて取り組むことをテーマとしています。

**1.1　中部圏の魅力とシビックプライド**

- 1.1.1　日本の国土を繋ぎ海外とつながる交通インフラ・ネットワーク
- 1.1.2　得意とするものづくり産業
- 1.1.3　豊かな自然環境
- 1.1.4　固有の歴史・文化
- 1.1.5　暮らしやすい環境
- 1.1.6　先進デザイン都市
- 1.1.7　中部圏のシビックプライド

**1.2　将来構想を考える上での前提条件**

- 1.2.1　激甚化・広域化・頻発化する災害
- 1.2.2　インフラの老朽化
- 1.2.3　人口減少と地域の持続困難性
- 1.2.4　社会生活の変化
- 1.2.5　技術革新（ＤＸ）の進展
- 1.2.6　待ったなしのカーボンニュートラル
- 1.2.7　景観・デザインの重要性

国土の長期展望「真の豊かさ」を中部圏として深堀

**2050年の目標**

「我が国を牽引する中心エリアとして進化するとともに、
固有の風土を大切にし、誰もが安全・快適に過ごせる地域連携社会の形成」

**中部圏インフラ整備構想のテーマ**

“『真の豊かさ』を実感できる国土づくりに向けて”

## 2.2　基本方針

中部圏インフラ整備構想のテーマである『真の豊かさ』の実現に向けて、第1章で示した「1.1　中部圏の魅力とシビックプライド」と「1.2　将来構想を考える上での前提条件」を踏まえて、以下の3つの基本方針を掲げます。なお、( )内は、第1章の1.1と1.2の関連する各節の番号を示します。

### 方針 ❶

**安全・安心の確保（1.1.1, 1.1.6, 1.1.7,　1.2.1, 1.2.2, 1.2.5）**

①万全な国土強靭化（流域治水の推進、南海トラフ地震に対する東西軸及び南北軸の連携強化によるリダンダンシーの確保）

②戦略的なインフラメンテナンス（インフラ分野のDX、デザイン性に配慮したインフラ空間の整備と利用）

### 方針 ❷

**持続可能な経済の好循環の実現（1.1.1, 1.1.2, 1.1.7,　1.2.3, 1.2.4, 1.2.5）**

③グローバルな経済基盤の形成（東京一極集中型から分散多核連携型の国土構造の転換、日本中央回廊による新たな価値創出、スーパー・メガリージョンによる新たな価値の創出）

④先進的なDXの推進（情報通信ネットワークの充実、デジタルとリアルの融合）

### 方針 ❸

**持続可能な地域社会の形成（1.1.1～1.1.7,　1.2.1～1.2.7）**

⑤連携による地域振興（持続可能で多彩な地域生活圏の形成、魅力ある地域づくり）

⑥先進的なカーボンニュートラルの達成（カーボンニュートラルの実現、低炭素都市づくり）

この3つの基本方針に対して、中部圏、名古屋圏、地域生活圏における将来に向けた目標をそれぞれ次の一覧に整理します。

## 2050年の目標

「我が国を牽引する中心エリアとして進化するとともに、

**1.1　中部圏の魅力と シビックプライド**

1.1.1 日本の国土を繋ぎ海外とつながる交通インフラ・ネットワーク

1.1.2 得意とするものづくり産業

1.1.3 豊かな自然環境

1.1.4 固有の歴史・文化

1.1.5 くらしやすい環境

1.1.6 先進デザイン都市

1.1.7 中部圏のシビックプライド

**1.2　将来構想を考える上での 前提条件**

1.2.1 激甚化・広域化・頻発化する災害

❶南海トラフ地震などの切迫

❷地球温暖化の進行による災害の激甚化・頻発化

❸富士山噴火の危機

1.2.2 インフラの老朽化

1.2.3 人口減少と地域の持続困難性

1.2.4 社会生活の変化

❶働き方の変化

❷ライフスタイルの変化

1.2.5 技術革新（DX）の進展

❶デジタル社会の急速な発展

❷スタートアップによる経済成長の促進

1.2.6 待ったなしのカーボンニュートラル

1.2.7 景観・デザインの重要性

（中部圏インフラ整備構想のテーマ）『真の豊かさ』

| | 方針①　安全・安心の確保 | | |
|---|---|---|---|
| 基本方針 | **万全な国土強靭化**<br>●流域治水の推進<br>●南海トラフ地震に対する東西軸及び南北軸の連携強化によるリダンダンシーの確保 | **戦略的なインフラメンテナンス**<br>●インフラ分野のDX<br>●デザイン性に配慮したインフラ空間の整備と利活用 | |
| 中部圏 | ●3.1.1分散・多核連携型の国土構造への転換<br>●3.2.1災害に強い交通ネットワークの整備<br>●3.2.3ものづくりを支える港の進化<br>●3.2.4アジアのハブ空港として機能するセントレア | ●3.2.2新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備<br>●3.2.5中部圏観光スポットへの移動支援 | |
| 名古屋圏 | ●4.1新たなものづくりを支える基盤整備 | ●4.2名古屋圏における都市間連携<br>●4.3.2道路空間の利活用の推進<br>●4.3.3水辺空間の利活用の推進 | |
| 地域生活圏 | ●5.3.1地震・津波などの大災害リスクの低減<br>●5.3.2「流域治水」の推進<br>●5.3.3道の駅の防災拠点としての環境整備 | ●5.1.2安全で快適な移動・生活空間の整備<br>●5.2.3美しい景観と自然環境を活かしたインフラ形成<br>●5.4.1予防保全に基づく持続可能なインフラメンテナンスの確立<br>●5.4.2集約・再編等によるインフラストックの最適化 | |

※基本方針の項目と各圏域の項目の関連を文頭の「記号」と「色」で示しています。

固有の風土を大切にし、誰もが安全・快適に過ごせる地域連携社会の形成」

## を実感できる国土づくりに向けて

| | 方針② 持続可能な経済の好循環の実現 | | 方針③ 持続可能な地域社会の形成 | |
|---|---|---|---|---|
| | **グローバルな経済基盤の形成**<br>▲東京一極集中型から分散：多核連携型の国土構造の転換<br>▲日本中央回廊による新たな価値の創出 | **先進的なDXの推進**<br>▲情報通信ネットワークの充実<br>▲デジタルとリアルの融合 | **連携による地域振興**<br>■持続可能で多彩な地域生活圏の形成<br>■魅力ある地域づくり | **先進的なカーボンニュートラルの達成**<br>■カーボンニュートラルの実現<br>■低炭素都市づくり |
| | ▲3.1.1分散・多核連携型の国土構造への転換<br>▲3.1.2リニア拠点駅（名古屋）を生かした地域づくり<br>▲3.1.3リニア中間駅（中津川・亀山）を生かした地域づくり<br>▲3.2.4アジアのハブ空港として機能するセントレア | ▲3.1.1分散・多核連携型の国土構造への転換<br>▲3.2.2新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備 | ■3.1.3リニア中間駅（中津川・亀山）を生かした地域づくり | ■3.2.2新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備<br>■3.2.3ものづくりを支える港の進化<br>■3.2.4アジアのハブ空港として機能するセントレア |
| | ▲4.2名古屋圏における都市間連携 | ▲4.1新たなものづくりを支える基盤整備 | ■4.3.1安全で快適な移動・生活環境の整備<br>■4.3.4いまあるものの付加価値化、リノベーションの推進 | ■4.3.2道路空間の利活用の推進<br>■4.3.3水辺空間の利活用の推進 |
| | ▲5.1.1新たな人の流れや地域間交流のための基盤整備<br>▲5.2.4地域生活を支える観光DXによる地域づくり | ▲5.1.1新たな人の流れや地域間交流のための基盤整備<br>▲5.2.4地域生活を支える観光DXによる地域づくり | ■5.1.1新たな人の流れや地域間交流のための基盤整備<br>■5.2.1地域の歴史・文化・自然環境による魅力ある地域づくり<br>■5.2.2農林水産業振興に向けた地域づくり<br>■5.2.3美しい景観と自然環境を活かしたインフラ形成 | ■5.4.2集約・再編等によるインフラストックの最適化 |

## 2.3　建設コンサルタントが貢献できること

2050年の中部圏におけるインフラ整備は、安全・安心な持続可能性と効率性を重視することが求められます。私たちは、以下の取り組みを通じて、建設コンサルタントとして社会に多面的に貢献できると考えています。

### 1 インフラの統合的管理

異なるインフラ（交通、エネルギー、水道など）を統合的に管理することで、効率性を向上させます。デジタルツイン技術を活用し、リアルタイムでのモニタリングやメンテナンス計画の最適化を行い、コスト削減と運用の安定性を実現します。

### 2 住民参加型の計画策定・設計プロセス

地域住民や利害関係者を巻き込み、意見を反映した計画策定・設計を行います。ワークショップやオンラインプラットフォームを通じて、地域のニーズや希望を把握し、コミュニティの絆を深めることで、より支持されるプロジェクトを目指します。

### 3 自然災害や環境に適応するインフラ整備

自然災害や気候変動に対応したインフラ設計を提案します。地震、洪水、熱波に耐えるためのインフラ（例：自然災害対策施設、透水性舗装など）を計画し、地域のレジリエンスを向上させることに貢献します。

### 4 モビリティの革新

自動運転車や電動車両の普及を見据え、交通インフラの改良を行います。専用レーンや充電インフラの整備を通じて、未来の移動手段に対応し、持続可能な交通システムを構築します。

### 5 資金調達の多様化

プロジェクトの資金調達において、公共・民間連携（PPP）やクラウドファンディングを活用し、地域の財政負担を軽減する新たなモデルを提案します。これにより、資金調達の選択肢を広げ、地域のインフラ整備を加速します。

### 6 教育と研修

地域の技術者や学生に向けた教育プログラムを提供し、次世代の人材育成を支援します。インフラ整備に関する専門知識を共有することで、地域の競争力を高めます。